

社会資本整備総合交付金

地域の交通リダンダンシーを強化する道路整備

事後評価資料

令和4年12月

仙台市 

地域の交通リダンダンシーを強化する道路整備

国土強靱化地域計画に基づき、市民の生活を支える重要な市道において、交通リダンダンシー（代替路の確保）を強化する道路の整備をおこなう。

市道 まちひがし ふるやしき せん
町東古屋敷線

被災状況



旧基準で設計された橋脚が多い橋梁であり、豪雨時に流木が橋脚に堆積し、河川が氾濫した

整備後



被災橋梁下流側に橋脚の無い橋梁を整備し、被災橋梁の橋脚を撤去することにより、安全・安心を図る

※R3以降は「地域の交通リダンダンシーを強化する道路整備（防災・安全）」にて引き続き実施

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	地域の交通リダンダンシーを強化する道路整備												
計画の期間	令和02年度～令和04年度(3年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	仙台市												
計画の目標	国土強靱化地域計画に基づき、市民の生活を支える重要な市道において、交通リダンダンシー(代替路の確保)を強化する道路の整備をおこなう。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	855	A	855	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (R2当初)	中間目標値	最終目標値 (R4末)
1	(市)向田団地線については、道路整備により、災害等で孤立化する世帯数を233(H31.4.1時点)から0に解消する。 孤立世帯数<現況値><目標値> = 災害等で孤立化する世帯数	233世帯	世帯	0世帯
2	(市)向田団地線以外の3路線については、道路整備により、災害等で現道が通行できない際に生じる迂回走行時間を、21分から7分に短縮する。 走行時間<現況値> = Σ(現道通行不可の際の迂回ルートの走行時間)・走行時間<目標値> = Σ(道路整備後の走行時間)	21分	分	7分

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
※走行時間<現況値21分>→<目標値7分>の内訳 ・(市)高畑定義線(高畑第2工区):6分→4分 ・(市)赤坂明神線(赤坂北工区):7分→2分 ・(市)町東古屋敷線(新馬橋工区):8分→1分														

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業	地域	交付	直接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		種別	種別	対象	間接							R02	R03	R04	R05	R06			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	道路	一般	仙台市	直接	仙台市	市町村	改築	(市)高畑定義線(高畑第2 工区)	L = 0. 6 k m	仙台市	■	■	■			732		—
	A01-002	道路	一般	仙台市	直接	仙台市	市町村	新設	(市)向田団地線(向田工区)	L = 0. 2 k m	仙台市	■	■	■			0		—
	A01-003	道路	一般	仙台市	直接	仙台市	市町村	改築	(市)赤坂明神線ほか3線(赤坂北工区)	L = 0. 5 k m	仙台市	■	■	■			0		—
	A01-004	道路	一般	仙台市	直接	仙台市	市町村	改築	(市)町東古屋敷線(新馬橋 工区)	L = 0. 3 k m	仙台市	■	■	■			123		—
												小計					855		
												合計					855		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

本市独自に実施

事後評価の実施時期

令和4年度

公表の方法

仙台市のホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

令和3年度から防災・安全交付金へ移行となったため、当該整備計画において整備計画の効果の発現までは至らなかったが、新たな整備計画により継続して事業を推進し、早期効果発現を図る。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

○特記事項（今後の方針等）

令和3年度からは、新たな社会資本整備計画「地域の交通リダンダンシーを強化する道路整備（防災・安全）により継続して事業を推進し、安全・安心な道路空間の形成を図る。

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	0世帯
	最終実績値	233世帯
孤立化する世帯数を233から0に解消する。 (市) 向田団地線において、地元との調整に時間を要したことから、当該整備計画期間内に事業を完了させることができなかった。		
2	最終目標値	7分
	最終実績値	14分
迂回走行時間を、21分から7分に短縮する。 (市) 高畑定義線及び(市) 赤坂明神線ほか3線において、気象条件による工事の遅れや、地元調整に時間を要したことから、当該整備計画期間内に事業を完了させることができなかった。		